

平成 28 年度

えんかくじ まだまみち

円覚寺跡・真珠道路跡

発掘調査 現地説明会



日 時：平成 28 年 9 月 24 日 [土]

午前の部 10:00 ~ / 午後の部 14:00 ~

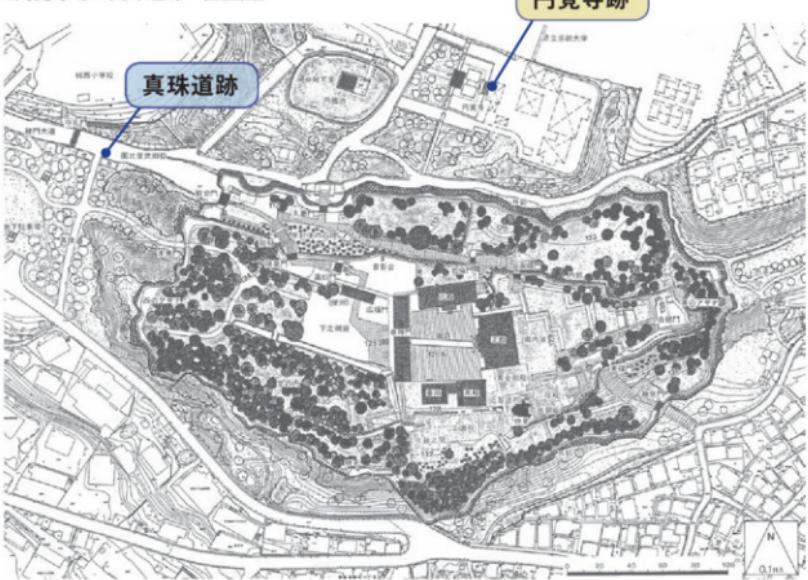
主 催：沖縄県立埋蔵文化財センター

協 力：首里城公園管理センター、株式会社 島田組

目 次

- ◆円覚寺跡 発掘調査..... P 1
- ◆真珠道跡 発掘調査..... P 5
- ◆関連年表..... P 9

《円覚寺跡・真珠道跡 位置図》



「首里城地区造園土木基本設計報告書」(昭和 63 年 3 月より)



平成 28 年度

えんかくじ

円覚寺跡 発掘調査

1. はじめに

沖縄県教育委員会では円覚寺跡の保全を図るとともに、往事の姿を復元整備すること目的に国の補助を受けて、保存整備事業を実施しています。

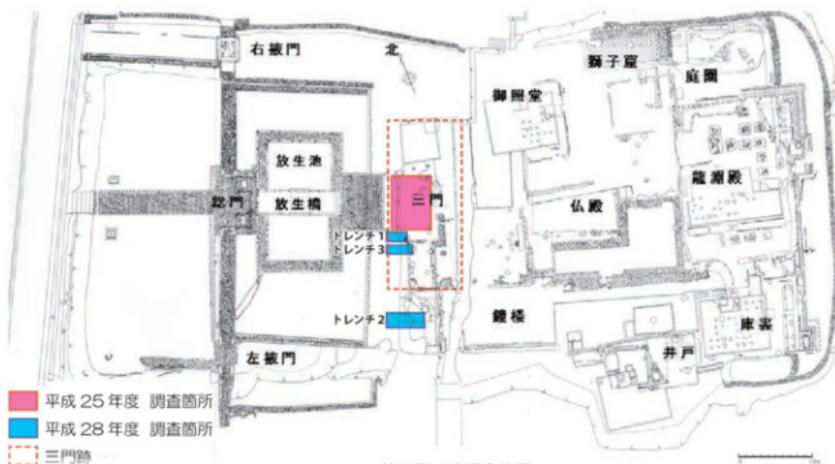
整備に先がけて、平成 9 年から平成 13 年までの 5 年間、沖縄県教育委員会及び沖縄県立埋蔵文化財センターによって遺構確認調査が実施されました。その調査成果などに基づき、翌年から円覚寺跡の外周を取り囲む石牆の復元整備を進めてきました。

今年度は、かつて存在した三門の復元に向けた遺構確認を目的として、三門地区において発掘調査を行いました。

2. 円覚寺跡とは

円覚寺は、1492 年から約 3 年の歳月を経て建造された臨済宗の寺院です。尚真王（第二尚氏王統第三代）が父親である尚円王の御靈を祀るために建立したと伝えられています。第二尚氏の菩提寺であり、約 450 年間継続しました。現在は国の史跡に指定されています。

境内には龍淵殿をはじめ、仏殿、御照堂、獅子窟、鐘楼、庫裏等の建物が建ち並んでいたことが文献資料や戦前に撮影された古写真等からうかがい知ることができます。これらの建物群は沖縄戦によって破壊されてしまいましたが、平成 9 年から 13 年に行われた発掘調査によって、建物の基礎遺構や石牆の一部が残っていることが確認されています。



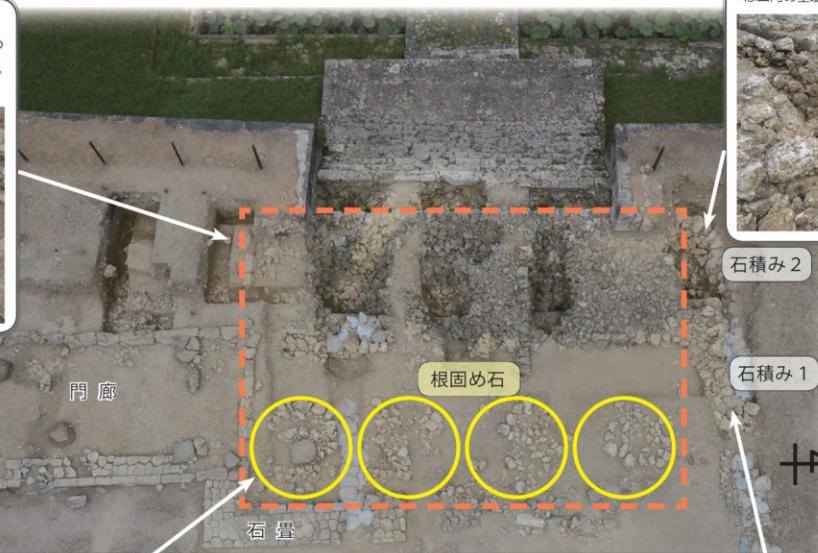
第 1 図 遺構全体図

3. 調査の成果

三門地区的遺構確認を目的に発掘調査を行った結果、以下のような遺構が見つかりました。これらの調査成果は、今後詳細な資料整理作業によりまとめられます。ここでは、現時点で判明している成果の概要を報告します。

石列

門廊の石列と同一方向に延び、また同じ高さで見つかったことより、三門の基壇の縁石と考えられます。基壇側には埠を敷くための段もみられます。



石積み 2

両端には約 70cm 大きな切石、両端以外は約 20 ~ 30cm 大きな石を使用して、相方積みで構築しています。勾配は持たず、ほぼ垂直に積まれています。石積み 2 は三門の基壇の石積みと考えられます。



石積み 2

石積み 1

基礎石、根固め石

柱を立てる基礎石を固定するために石灰岩謫を配置し、その上に基礎石を置いたことが考えられます。



石積み 1

南北方向に延びる相方積みの石積みで、幅は約 120cm あり、東西方向へ勾配を持ちます。石積み 1 は、地中に塗かれた土留めの石積みと考えられます。



※その他の調査成果

< H28 トレンチ 2 >

約 1.3m 以上掘り下げるものの、ガラス片や鉄片などの現代遺物が混じる攪乱の土が続くことから、戦時に大きく破壊を受けたことが考えられます。遺構は確認できませんでした。

< H28 トレンチ 3 >

多くの瓦片がまとまって見つかりました。三門は瓦葺きの建物であったことより、これらの瓦片は、瓦の葺き替えの際に廃棄されたものとも考えられます。



H28 トレンチ 2

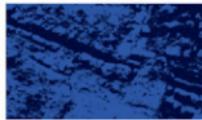


H28 トレンチ 3 瓦溜まり検出状況

4.まとめ

三門地区の発掘調査の結果、三門の基壇や柱配置の手がかりとなる礎石及び根固め石が見つかりました。これらの遺構によって、三門の規模や向き、基壇の高さなど、三門復元に必要となる様々な成果を得ることができました。その他、円覚寺における土地の造成事業の一端についても明らかになりました。

これらの遺構の年代については、出土遺物が少ないため、詳細な検討が必要ですが、わずかに出土した陶磁器を参考にすると、15世紀後半～と円覚寺の創建当初の年代となる可能性が考えられます。今後、詳細な検討を行い、三門復元に向けての基礎資料としてまとめていきたいと思います。



平成 28 年度

ま だまみち

真珠道跡 発掘調査

1. はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、平成 28(2016) 年に「真珠道跡」の発掘調査を実施しています。今回の調査では、戦前まであった真珠道跡とこれに隣接する国王頌徳碑の範囲・状況を確認することを目的としています。この調査成果は今後の首里城公園の整備のための基礎資料となります。

2. 調査の概要

遺跡名：真珠道跡

所在地：那覇市真和志町 1 丁目 7 番 1 地先

調査目的：遺構の範囲確認調査

調査面積：約 71m²

調査期間：平成 28 年 8 月～9 月

3. 真珠道について

真珠道は尚真王代(1477～1527)に首里王府によって整備された道です。真珠道は石敷きで、はじめは首里から真玉橋(現在の豊見城市)までの約 4 km が整備され、その後 1553 年には那覇港(現在の住吉町)まで延長され、約 8 km の石畳が続いているとされています。

真珠道が整備された理由は、当時各地で猛威を振るっていた倭寇への対策だったとされています。尚真王は那覇港に倭寇が来襲した際には兵を派遣し、南風原、豊見城の真玉橋を通り那覇港の南側(垣花)へ向かったとされています。

4. 国王頌徳碑について

国王頌徳碑は尚真王の功績が記された石碑で、真珠道の東側にあったことから石門之東之碑とも呼ばれていました。碑文には尚真王の功績として、それまで 100 年以上続いた国王が亡くなった際に行われる殉死の風習を禁じるなど仁政を施したことが記されています。

5. 調査成果

今回の調査では以下の遺構を確認しました。これらの遺構の性格は今後資料整理を行い、検討を行っていきます。ここでは現在確認できる遺構の状況や過去の調査成果について説明します。



調査区の東側に国王頌徳碑とこれを囲う石積みを想定していましたが、戦後の造成時に壊されおり、これらに伴う遺構は確認できませんでした。**(橙色部分)**

この他溝状遺構も戦後の造成による影響を受けており、石積みの一部が外され、水道管が通されています。**(○が外されたと考えられる石、破線部が外された箇所)**



溝状遺構近景（北側より撮影）



調査区東側遠景（南側より撮影）

6.まとめ

今回の調査では当初想定していた国王頌徳碑に伴う遺構を確認することができませんでしたが、真珠道に伴うと思われる石積み、南から東に向けて延びる溝状遺構を確認することができました。これらの遺構の詳細については、今後遺物や堆積状況の整理し検討を行い、真珠道跡の復元の基礎資料としていく予定です。



調査区遠景（南側より撮影）

琉球王国・首里城 関連年表

円覚寺跡関連

真珠道跡関連

年号			事項
西暦	日本	琉球	
1422年	応永 29	尚巴志 1	尚巴志即位。この頃、美福門（1422～1439年）創建
1428年	正長 1	7	建国門（中山門）を創建
1429年	永享 1	8	中山王尚巴志、山南王を滅ぼし三山を統一
1451年	宝徳 3	尚金福 2	国相懐機、長虹堤を築く
1453年	享徳 2	4	王位継承争い「志魯・布里の乱」起こる。首里城焼失
1458年	長禄 2	尚泰久 5	護佐丸・阿麻和利の乱。「万國津染の鐘」鋳造され首里城正殿にかける
1459年		3	6 王府失火で倉庫（京の内倉庫跡）などを焼く
1470年	文明 2	尚円 1	金丸、王位に就き尚円と号し、第二尚氏王統始まる
1477年		9 尚宣威 1	尚宣威王位に就くが、尚真に位を譲る
1492年	明応 1	尚真 16	円覚寺創建。仏殿、荒神堂、寝室、方丈、仏殿、法堂、山門、両廊、僧坊、厨庫、浴室が創建。当初の建物。「広範囲に地ならしを行い、瓦を造って堂宇に葺いた」とされる（『球陽』、『琉球國由来記』ほか）
1494年		3 18	円覚寺建立（1494年竣工）。約3年をかけて七堂伽藍完備の禅宗寺院として完成。宗廟を堂（『球陽』）、『中山世譜』ほか）
1495年		4 19	前鐘、中鐘鋳造
1496年		5 20	鐘楼築造、樓鐘鋳造（『球陽』）
1497年		6 21	円覺寺碑記碑文撰文（碑文より）
1498年		7 22	放生池、放生橋築造（『球陽』）
1501年	文亀 1	25	玉陵を築く
1502年	永正 2	26	円覚寺の前に園庭池を作り、弁財天堂を建し朝鮮王贈られた方冊藏経を納める。琉球の使臣福建に送って、船の補造する
1508年		5 32	首里城正殿に石造欄干造営、北殿創建、一对の大龍柱を設置
1519年		16 43	圓比屋武御殿石門・井ヶ原の石門創建
1521年	大永 1	45	白象彫像（木札より）
1522年	天文 2	46	真珠渕碑文（仮名書きのミセセルが書かれる）建立し、軍事兼用の真珠道整備と真玉橋那覇港防禦を明記。石門（真珠道）の東側へ国王頌徳碑建立（宮古の仲宗根豈見親玄雅、宝治金丸などを献上し国王の徳讃え、殉死を禁じる）。1522年創建の真玉橋は木橋五座（中真玉橋、北側が世持橋、南は世持橋、両端に無名の二座）。この頃（1527～1555年）、龍首里門（守礼門）を創建
1528年	享禄 1	尚清 2	待賢門（後の守礼門）建立
1554年		23	那覇港に屋良座森城が築城、碑文が建立される
1556年	弘治 2	尚元 1	尚元即位、倭寇來襲し尚元王、兵を率いてこれを破る
1571年	元亀 2	16	御照堂を加建（『球陽』）
1579年	天正 7	尚元 7	首里門に「守礼之邦」の扁額を掲げる
1588年		16	方丈、大殿、山門を修復
1596年	慶長 1	尚寧 8	法堂（仏殿？）修復
1597年		2	浦添から首里に至る道路が開通し、大平橋（平良橋）が石橋に改築
1628年	寛永 5	尚豐 8	首里城南殿創建
1660年	万治 3	尚質 13	首里城、火災で炎上し正殿その他の焼失
1661年	寛文 1	14	慈恩寺橋が龍潭に移設されて世持橋となる
1670年		10 尚貞 2	首里城正殿再建工事により瓦葺きに改める
1677年	延宝 5	9 東苑（御茶屋御殿）	が創建、首里金城の石橋が完成する
1681年	天和 1	13 中山門が瓦葺に改修される	
1694年	元禄 7	26 石火矢橋（豊見城城跡東側の鰐波川に橋架）	を木橋から石橋に改築
1697年	寛永 10	29 横鐘毀損のため再鋸。山門に觀音、十六羅漢像安置	
1707年	宝永 4	39 真玉橋石橋に改修	
1709年		6 41	首里城正殿・北殿・南殿焼失
1712年	正徳 2	尚益 3	首里城再建が本格化し、1715年に完了する
1721年	享保 6	9 大殿（龍淵殿）焼失、同年再建（『球陽』）	
1722年		7 10	井戸の西側に行堂を創建
1728年		13 16	獅子窟、御照堂を小堂に改築
1729年		14 17	首里城正殿重修され、「御差床」の位置を中央に移設
1744年	延享 1	32 鐘楼、亭寮、照堂寮の移築、修復（『球陽』）	
1753年	宝曆 3	尚穆 2	首里城寢殿・世添御殿創建される
1798年	寛政 10	4	首里中城御殿に公学校所（国学）創設
1809年	文化 6	尚灝 6	真玉橋（北側の世持橋）が大雨で決壊

年 号			事 項
西暦	日本	琉 球	
1836年	天保 7	尚育 2	真玉橋重修（北側の世寄橋のアーチを大きくし、その北側に世済橋を新たに新設。北から南へ、世済橋、世寄橋、真玉橋）
1837年	8	3	重修真玉橋碑文建立（1522年の木橋を石橋に改修した記念碑文、1708年と1837年の二次の事が一つの碑文に記す）
1846年	弘化 3	12	首里城正殿重修。首里城外郭の歓会門、久慶門、総世門を二重扉とする
1879年	明治 12	尚泰 32	尚泰王、首里城明け渡し（廃藩置県）、琉球王国が崩壊し、沖縄県誕生
1884年	17		尚家の私寺に移管
1894年	27		清国貿易に関する船舶の那覇港への出入及び貨物積卸しを許可
1908年	41		首里城中山門、老朽のため52円余で売却撤去。沖縄県及び島嶼町村制を施行
1909年	42		首里城、首里区に払い下げられる
1912年	大正 1		首里城内に第一小学校ができる、広福門、奉神門撤去
1923年		12	首里市会、首里城正殿の解体を決議する。首里城伊東忠太・鎌倉芳太郎来県、首里城の調査研究を行ない文部省に保存を訴える
1925年		14	首里城正殿を国宝に指定
1927年	昭和 2		国庫補助により首里城正殿の解体修理工事着手
1931年		6	首里城正殿解体修理工事完成
1933年		8	首里城歓会門、瑞泉門、白銀門、守礼門ほか国宝指定
1933年	8		総門、右掖門、左掖門、放生橋、山門、仏殿、鐘楼、獅子窟、龍洲殿が旧国宝指定
1934年		9	首里城北殿の修理始まる（～1936年完成）
1937年	12		田辺 泰・巖谷不二雄『琉球建築』を刊行。守礼門解体修理
1944年		19	首里城地下に第32軍司令部壕が構築される
1945年		20	首里城正殿を含む建造物群や石積み等、沖縄戦で焼失・崩壊
1945年	20		円覚寺沖縄戦で焼失・崩壊
1948年		23	円覚寺跡に琉球大学官舎建設
1951年		26	首里城跡に琉球大学開学
1955年		30	円覚寺跡が琉球政府指定史跡に
1956年		31	放生池石橋勾欄、木像白象及び趣意書木札が琉球政府特別重要文化財に指定
1957年		32	圓比屋武御嶽石門を復元する
1958年	33		守礼門を復元する
1965年	40		円覚寺跡に琉球大学グラウンド建設
1967年		42	首里城跡を含む戦災文化財の復元整備計画立案
1968年	43		琉球政府文化財保護委員会により、総門、右・左掖門、放生池が復元される
1972年		47	沖縄本土復帰。首里城歓会門復元整備着手（～2001年度までに外郭石積み、木曳門、世継などの各門が完成）
1972年		47	円覚寺跡が国指定史跡に、放生橋が国指定重要文化財に指定。総門が県指定有形文化財に指定
1978年		53	前鐘、中鐘、楼鐘が国指定重要文化財指定
1982年		57	首里城跡より琉球大学移転
1984年		59	琉球大学が西原町に移転完了。沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定し、県営公園として開始
1985年		60	首里城正殿跡の発掘調査に着手（～1986年度まで実施）
1986年		61	首里城内郭の約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」を沖縄復帰記念事業として復元整備おこなうことが閣議で決定
1988年		63	北殿・南殿・御庭地区の発掘調査が開始
1989年	平成 1		首里城正殿及び南殿、番所、北殿、奉神門復元工事に着手
1992年		4	首里城正殿、北殿、南殿ほか復元整備完了し一般公開
1994年		6	首里城京の内地区の発掘調査開始（～1997年度）、1459年に火災により焼失した倉庫跡録掲載）が発見される
1997年		9	首里城下之御庭の首里森御嶽復元竣工
1997年		9	沖縄県立埋蔵文化財センターにより円覚寺跡発掘調査開始（1997～2001、2006～2010、2013、2016）
1999年		11	首里城二階殿復元竣工
2000年		12	沖縄サミット開催。首里城京の内地区倉庫跡出土陶磁器が国の重要文化財に指定される。首里城跡、圓比屋武御嶽石門を含む9資産がユネスコの世界遺産に登録される
2003年		15	首里城京の内復元竣工
2003年		15	円覚寺関係木彫資料35点が県指定有形文化財に指定
2004年		15	沖縄県立埋蔵文化財センターにより真珠道路発掘調査開始（2004～2007、2016）